



# 歴史と 伝統と 栄光と

創立130年余の本学には、  
長い歴史を誇る体育会が多い。  
ボクシング部しかり、陸上競技部しかりである。  
諸先輩から受け継がれてきた伝統を踏まえ、  
新たな栄光に挑む、  
専大スポーツパーソンを追った。

## われら専修人 [スポーツ編] File No.95

昨年11月の世界バンタム級王座獲得、本年4月の初防衛、同じく4月に結婚と、三重の喜びが重なった山中慎介さん。好きな言葉は、「継続は力なり」。その言葉を実践する絶え間ない練習が、無敵のサウスポーを世界チャンピオンという頂点へと導いた。世界チャンピオンになっても飾らない、気さくな山中さんに王者になった気持ち、プロ入りの動機などについてお聞きした。

### 目指していた、 世界の王者になった瞬間。

2011年11月の世界王者決定戦で勝ったとき、「本当に世界チャンピオンになったのかな!？」と、リング上で半信半疑でした。大勢の観客の皆さんが拍手してくれて気持ちいいんですが、ずっと追い求めてきた世界チャンピオンになってみると、「実現した!」という感じではなく、口では表現できない何か不思議な感覚にとらわれました。翌日の新聞の1面に自分の記事が掲載されても、知り合いが出ているような気持ちで、自分のこととは思いませんでした。本当に実感が湧いてきたのは、初防衛戦の日程が決まったときですね。

チャンピオンベルトを初めて手にしたとき、厚みはさほどありませんが、「しっかりしているな」という印象でした。物理的な重さというより、「世界の重み」を痛感しました。

チャンピオンとしての自覚は、日本チャンピオンになったときよりも世界チャンピオンになってから、より強くなりました。自分の行動一つひとつにしても、しっかりしなければいけないという気持ちで、いっぱいです。自分としてはまだまだ課題があり、今後、ボクシングはもちろん、人間的にも成長していきたいと考えています。

### プロになる決意。 そして、転機。

プロ入りを決意したのは、大学最後の試合の後です。それまでプロに行くかどうか、決めていませんでした。大学最後の試合といえば、アマチュア・ボクシングの集大成です。ところが、何もできず初戦で敗退してしまいました。そのとき、「ボクシングを止めてしまったら、絶対、後悔する!」と思いました。だったら、「プロになって、世

面を想定した上で戦うということでも切られました。

また、ラウンドごとの、1分間の休憩の使い方も変わりました。以前の自分だとトレーナーと何を話したか、覚えていないこともありました。最近では、いまのラウンドの反省、次のラウンドに向けての作戦など話したことを、しっかり記憶しています。そして、納得して次のラウンドに向かいます。この1分間の休憩は、非常に大事です。



## WBC世界バンタム級チャンピオン 世界王者誕生、初防衛。山中慎介

「世界チャンピオンを目指そう!」と、その日に決意しました。性格的に負けず嫌いということもありますが、ボクシングを続けていけば上に行けるという自信もありましたし、何より後悔したくありませんでした。



ボクシングでの大切なパートナーである、トレーナーの大和心さん(写真右)。山中さんがアバウトなのに対し、大和トレーナーは細かい性格で、二人はバランスがとれているとのこと。

ボクシング生活で転機の一つとなったのは、試合において「最悪」のことを考えるようになってからです。それからは、落ち着いて試合ができるようになりました。それ以前の自分は、いいことだけしか考えずに試合をして、ちょっと試合の流れが悪くなると焦ったりしました。ところが、「最悪」のことを想定でき

るようになってからは、少くらしい形勢が悪くても慌てず、落ち着いて試合を進められるようになりました。人によっては、良いイメージで戦ったほうがうまくいくという人もいますが、私の場合、悪い場

### 自分が変わった 成長した。

振り返ってみると、以前だと自分にはトゲトゲしい部分があったように思いますが、ランキングが上位になるにつれ、いまでは丸くなりました。それは、上位になるにつれて応援してくれる人がどんどん増え、感謝の気持ちを忘れないようにしているからではないかと思います。

世界チャンピオンになって次の夢は、海外の有名選手にも勝ち、「本物のチャンピオン」と呼ばれることです。

校友の皆さんに伝えたいのは目標を設定し、それに向かって一生懸命、努力すること。毎日コツコツ積み重ねていけば、必ずいい結果が出ると思いますので、あきらめずに続けてほしいですね。私が凄く好きな言葉は、「継続は力なり」です。

また、世界チャンピオンとして、日本のボクシングをもっと盛り上げたいと考えています。会場に来ていただいたり、テレビでもけっこうですので、ぜひ観戦・応援をお願いします。(談)

やまなか しんすけ ●  
2005(平成17)年、商学部商業学科卒業。1982年生まれ。滋賀県出身。専大時代はボクシング部の主将を務める。卒業後、帝拳ボクシングジム所属。18戦16勝(11KO)0敗2分(2012年6月現在)。  
2006年 プロデビュー  
2010年 日本バンタム級王座獲得  
2011年 WBCバンタム級王座獲得  
2012年 初防衛

### ■ボクシング部歴史

発足: 1926(大正15)年  
創部: 1928(昭和3)年  
発足より86年、創部より84年  
昭和62年 関東大学リーグ戦 優勝

### ■オリンピック代表選手

オリンピック出場者は、下記3名。  
1936(昭和11)年 ベルリン  
中野千代人(昭13・経学)  
1976(昭和51)年 モントリオール  
石垣 仁(昭52・人文)  
2008(平成20)年 北京  
川内 将嗣(平20・商業)  
他、全日本チャンピオンなど多数輩出。

### ■主なプロボクシング選手

バトルホーク風間(風間 清)(昭50・法律)  
大橋 秀行(平23・推薦会員)  
など